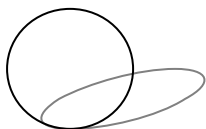


特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

2007 年度事業計画書

期間:2007 年 7 月 1 日 ~ 2008 年 6 月 30 日

2007 年 9 月 8 日現在



目 次

. 2 0 0 7 年度の方向性	2
この 10 年の成果 課 題 2007 年度事業の基本方針	
. 2 0 0 7 年度 事業計画	1 0
1. センターの事業に関する事項	10
2. センターの運営に関する事項	19
. 2 0 0 7 年度 収支予算	2 0

． 2007年度の方向性

せんだい・みやぎNPOセンター10年の成果と 2007年度の方針

[この10年の成果]

せんだい・みやぎNPOセンターのミッションによれば、主に仙台・宮城の地におけるNPOへの支援・活動基盤強化と企業・行政とのパートナーシップにより、NPOの発展と市民社会の発展をめざしてきた。そして、以下の4つを主な活動の柱にしてきた。

- 1 . NPOの必要性について、広く社会に発信する。
- 2 . 市民活動団体・NPOのエンパワーメント（カづけ）のための支援とサービスの提供を行う。
- 3 . 市民による非営利の政策シンクタンクとして活動する。
- 4 . 21世紀の新しい企業セクター創造のために、企業とNPOのパートナーシップを促進する。

では、この10年の活動の中で、何を実現し、どんな成果を上げてきたのか以下に検証する。

- 1 . NPOの必要性について、広く社会に発信する。
ホームページ、情報誌、同報FAX、プレスリリース、シンポジウム・フォーラムの開催などによる、啓発・広報・情報発信を実施することで、適切な世論形成を行う。

この10年、日本社会にNPOという言葉は表面的には十分に定着したと言えよう。新聞にNPOという言葉が載らない日はないし、NPO法人の数も、全国で3万団体を突破、宮城県の認証団体数も490団体を越した。つまり、日本社会に市民公益活動に対する社会的認知をもたらした

ものが、この10年の大きな成果と言えるだろう。

もともと当センターの活動は、NPO法の制定運動から始まって、地域支援システムの構築を課題として取り組んできた。法の上では、NPO法の改正、認定NPO法人制度の新設と改正、公益法人改革等の運動を続け、一定程度の成果をもたらした。宮城県においては、NPO促進条例制定のときに、議員立法を奨め、県議会と共に条例をつくった。この議員立法が契機となり、宮城県議会は、「議員立法数日本一の県議会」になった。また1999年には第3回NPOフォーラム東北会議を開催、全国からNPO関係者が集結、仙台・宮城の名前を全国に知らしめた。当センターおよび仙台市市民活動サポートセンターに対する視察・ヒアリング等もコンスタントに続き、仙台・宮城のシティセールスにも大きく貢献してきた。

さらには地元マスコミを中心に、適切なNPOの世論形成にも継続的に尽力し、現在も河北新報に毎週、コラム「NPO情報室」を連載している。またNPOの不祥事などのときにも、タイムリーな情報発信を心がけ、適正な世論形成に努めた。大きな啓発事業としては、5年目を迎えた「せんだいCARE S」の実行委員会によるキャンペーンがある。この取り組みには、たくさんの企業が協賛、協力し、NPOの活動に対する関心を高める効果をもたらしてきた。

2. 市民活動団体・NPOのエンパワメント（力づけ）のための支援とサービスの提供を行う。

マネジメント情報支援・研修講座、資源・資金提供、ネットワーキング支援などによる、NPOのパワーアップを支援する。

仙台・宮城のNPO法人数は490団体を超えている。人口あたりの法人数も、全国水準を上回り、NPOが盛んな地域との高い評価を得ている。各種マネジメント講座の主催・受託による開催、経営相談、セナードサロンの開催、サポート資源提供システムとみんなファンドによる総額4,453万円もの物資・資金支援の実施などを通して地域のNPOのエンパワメントに貢献した。成長したNPOによ

る事務所開設も多数を数え、実質的な雇用も生み出している。その事務所への什器備品やリユースPCの提供もNPOの成長を後押ししている。

また、1999年6月の仙台市市民活動サポートセンターの受託後は、全国に先駆けた公設民営型の施設運営の第一号として高く評価され、総合的な市民活動の支援を行っている。また、その後の仙台市の指定管理者制度へのNPO参入のモデルとしても意義があった。サポートセンターでは、6,100団体のデータベースを維持し、公共施設でのチラシ配架システム「骨プロ」を提案して実現、公共施設運営の革新モデルとして注目されている。

NPOの情報発信・公開支援として、NPO情報ライブラリーを運用、会計情報まで含むNPOのデータベースとして高く評価されている。近年では特に、NPOの情報開示について調査分析をもとにした啓発セミナー等を開催し、NPOの信用創造のための取り組みに力を入れている。

3. 市民による非営利の政策シンクタンクとして活動する。

アドボカシー（政策提言活動）自主及び受託調査研究、行政施策のコンサルティング業務（受託）などを行い、市民参加型社会システムの構築を支援する。

行政セクターとの関わりとしては、設立以前から、市民参加・協働型行政運営を提案し、1999年の仙台市長による「市民協働元年宣言」以来、「市民協働」という言葉を全国的に定着させる原動力となった。そして、宮城県および仙台市においては、協働の手引きの策定と協働事業の評価の取り組みが行われ、その結果が毎年公表されている。

IIHOEとの協力による「協働環境調査」では、宮城県および仙台市は、それぞれ県および政令市の中でトップクラスに入る協働環境整備の進んだ自治体になっており、直接間接に当センターの取り組みが影響を与え、実際の協働の取り組みを裏支えている。また周辺自治体への波及効果も見えてきた。その他、東北のNPO実態調査を実施し、評価システム研究会参加、市民による政策提案に関する研究会へ参加した。

仙台市市民活動サポートセンターの管理・運営も、9年目に入り、指定管理者制度2期目に移行しているが、あくまで「市民協働を進める拠点施設」という位置づけで仙台市との協働の取り組みを進めている。

他のさまざまな受託事業の中でも、アレマキャンペーン、クリーン仙台推進員グループ学習会、緑の市民ネットワーク事業などで、市民参加型の取り組みの促進に尽力し、モデル事業を創出してきた。

また「NPO法人の事業報告書等調査」「協働の強化書研究会」など自主事業による調査も継続して行い、NPOのスキルアップと政策提言に結び付けてきた。

4. 21世紀の新しい企業セクター創造のために、企業とNPOのパートナーシップを促進する。

企業からNPOへ様々な経営資源（サポート資源）を提供するシステムの開発や、企業への相談・コンサルテーション、人材研修などを行い、企業と協働して、新しい社会貢献領域の創造に務める。

企業とのサロンの運営、地元企業のNPO意識調査などを経て、2000年より、企業・団体の皆さん約40社と「サポート資源提供システム」を開発、試験運用を経て、本格運用を行ってきた。2003年7月には、みんなファンドを設立した。あわせてこの5年半の間大きな成果をあげてきた。

特筆すべきは、その運営に協賛・提携いただいている企業・団体が多数あり、さらにはNPOの情報公開支援のシステムとして、NPO情報ライブラリーを開発、情報公開に積極的なNPOの集まりが、社会から支援を呼び込むことができることを立証し、全国的に影響を与えていることである。また2003年より企業人を交えた実行委員会での取り組みを続けてきた「せんだいCARE S」は、今年で5年目を迎える。全国的にも、これだけの企業群との協働の仕組みを持ったセンターは少なく、注目されており、今後は地域企業のCSRへの取り組みへも連動していくところである。

[課 題]

今後の課題としては、

NPOの新しい担い手として事業系・社会起業家系人材の育成とネットワーク化を通して、地域事情にマッチした社会的事業を開発し、その担い手としての事業型NPOを強化、促進していく。

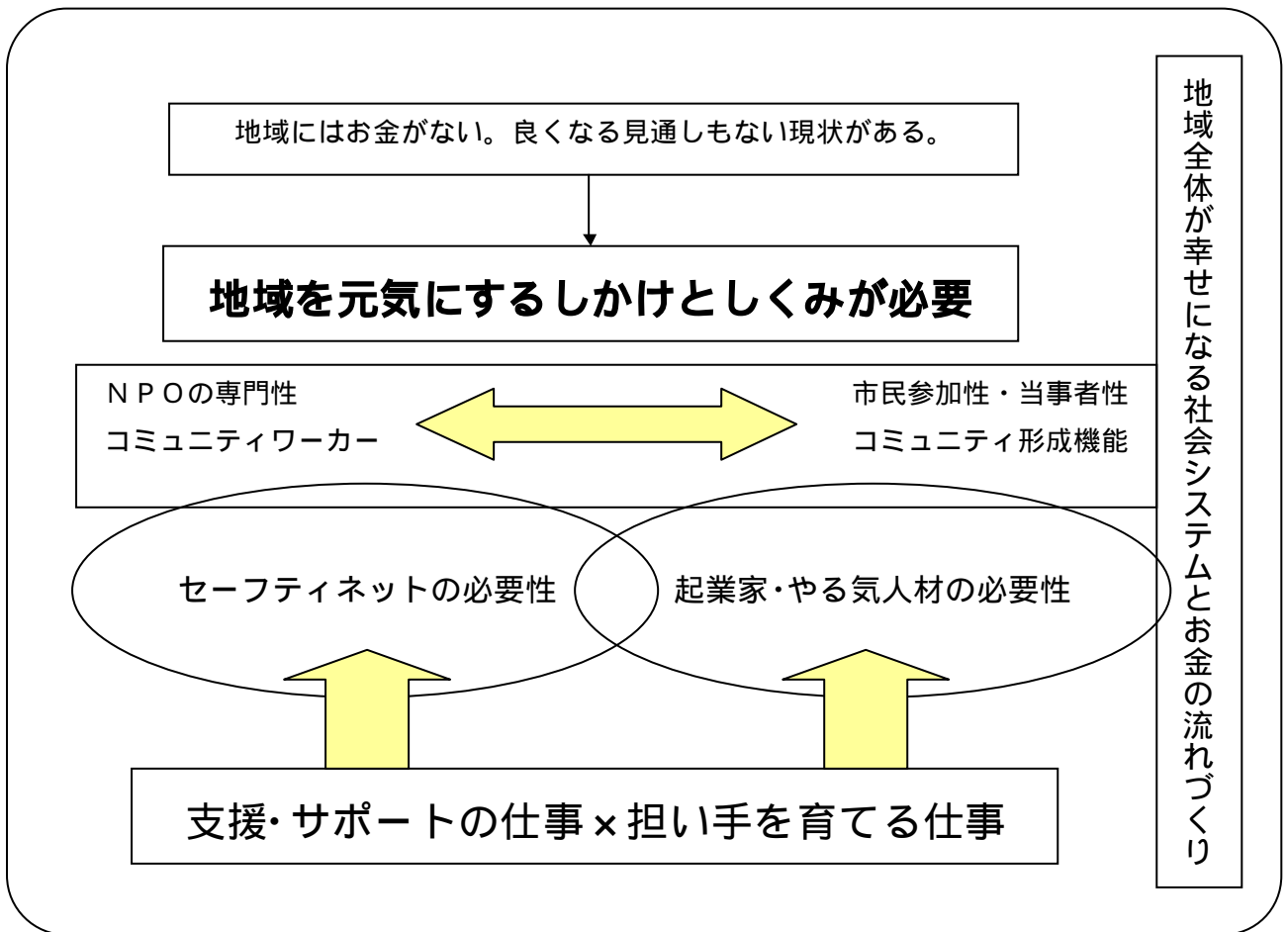
NPOの情報公開・発信力を高め、社会的信用の創造を進めて、サポート資源提供システムとみんなファンドの運用を強化し、社会的資源の仲介をより進め、NPOの自立と自主財源率の向上を目指す。

委託や指定管理者制度など協働環境の整備を進めさせ、NPO側の力量形成と共に、地域におけるまっとうな協働の促進を進める。

市民による社会変革への胎動をより推し進め、市民参加・協働型社会創出へのゆるぎない理念と方法論の確立を目指す。

の4つが大きな課題であろう。

また細部では、個別団体向けコンサルテーション、分野別ネットワークの推進とアドボカシー、NPO間の連携・協働の推進、仕事をする理事と理事会の育成、コミュニティ政策に対する提案などが求められている。



[2007年度事業の基本方針]

せんだい・みやぎNPOセンター10周年記念事業を成功させる。

NPO法施行9周年、せんだい・みやぎNPOセンター設立10周年記念事業に取り組む中で、この10年の総括と今後の10年の展望を描く共同作業を、地域のNPOと、そして各地の支援センターとの間で行い、次世代につなげる。

指定管理者第二期目の仙台市市民活動サポートセンターと新規事業である仙台市シニア活動支援センターとの有機的な事業展開によって、仙台市の市民活動支援と協働推進の流れを守り育てていくと共に、新たに市民参加型公共施設運営プログラムを開発、推進する。また、そのノウハウを他のNPOに提供する機会を創出し、協働の推進に貢献する。また、協働環境調査や「協働の強化書」の活用、協働相談所の運営などを通して、行政とNPOとの協働の推進を図り、コミュニティの問題解決に貢献する。

NPOの情報開示・発信力の向上のために、日本財団CANPANと提携し、NPO情報ライブラリーの機能を強化し、「地域公益ポータルサイトみんな」を構築・運用する。センターホームページの改修と発信力強化と共に、ブログの活用などによって地域NPOの情報発信支援を総合的に推進する。

サポート資源提供システムとみんなファンドは、より安定的な運用を目指すと共に、プログラムの改良や寄付者の開拓などに積極的に取り組んでいく。

企業セクターとの協働の推進については、サポート資源提供システムとみんなファンドの運営委員会、せんだいCARESキャンペーン実行委員会、そしてCSRへの取り組みなどを推進する中で、より幅広い企業との関

係を構築し、企業市民としてのまちづくりへの参加を促進する。

10周年を契機に、次の時代に対応する組織基盤強化に取り組み、次世代育成を図る。会員制度見直し、研修制度、研究会、研究生制度、インターンシップなど多様な参加のシステムを検討していく。

． 2007年度事業計画

1．センターの事業に関する事項

A． 政策提言（アドボカシー） 啓発事業

< 関連事業 >

NGO/NPOに関する税・法人制度改革連絡会への参加
協働環境調査の実施とその成果の発信
仙台市「市民活動サポートセンター管理運営・協働相談」の継続
各種委員会への参画

B． マネジメントサポート事業

< 関連事業 >

NPO経営相談の継続
講師派遣、研修受け入れ
仙台市「市民活動サポートセンター人材育成事業」の企画・運営の継続
名取市「市民活動支援センター」相談派遣業務の継続
マネジメントセミナー（IIHOEとの共催）の開催 など

C． ネットワーキングサポート事業

< 関連事業 >

センターサロンの企画・運営の継続
せんだいCARESキャンペーンへの協力
仙台市「市民活動サポートセンターネットワーク推進事業、誘導・啓発事業」
企画・運営の継続
仙台市「シニア活動支援センターシニアサロン・社会貢献マッチング交流会」
の企画・運営
名取市「市民活動支援センター」相談派遣業務の継続
東北ろうきん 東北NPO支援センター連絡会議の開催協力
子どものためのNPOとの協働事業（日本NPOセンター）への協力
各地NPO推進機関との連携 など

D． 情報サポート事業

< 関連事業 >

NPO情報ライブラリーの継続運用
ホームページの改修と運用

ブログによる情報発信支援
事務局通信「みんな」のリニューアル
みんな堂によるの書籍販売の継続
せんだいCARE Sキャンペーンへの協力
河北新報「NPO情報室」への寄稿の継続
各種媒体への寄稿
仙台市「市民活動サポートセンター情報サロン・骨プロ・図書販売」企画・運営の継続
仙台市「シニア活動支援センターシニアサロン・社会貢献マッチング交流会・情報提供」の企画・運営 など
せんだいみやぎオータムセミナー実行委員会への参加・協力

E . 調査・コンサルティング事業

< 関連事業 >

まち美化に関する市民活動推進のための支援事業の企画・運営
クリーン仙台推進員研修の企画・実施継続
コミュニティ自立研究会（東北開発研究センター）への参加
NPO共同事務所ネットワークへの参加
第3回協働環境調査（I I H O E）への参加
CSR調査とセミナーの開催
研究会参加各種講師・研修派遣 など

F . NPOの経営資源の仲介・提供事業

< 関連事業 >

サポート資源提供システムの運営
物品等提供
パソコン等提供
資金提供 = みんなファンド
みやぎNPO夢ファンド
ろうきん地域貢献ファンド
ふくふくファンド
各種委員会運営
セミナーの開催
NPO情報ライブラリーとの連動
ホームページの運用
せんだいCARE Sキャンペーンとの連動 など

特別事業

(1) サポート提供システムの運営(2006年4月1日~2007年3月31日)

「サポート資源提供システム」は、本格運用6年目、「地域貢献サポートファンドみんな(みんなファンド)」は、運用5年目に突入する。年間約1,000万円規模の資源・資金の仲介・提供を実現している地域ファンドはまだまだ少ないことを思えば、この5年の成果は大きなものであると言える。また、昨年度は、約7,500坪の土地の寄贈の仲介を成功させたが、今後もこのような寄贈の可能性を広くアピールをしていきたい。

一方、システム自体は安定的に運用が可能になったが、事務局費用の確保や寄付者の開発については、まだ大きな課題が残っているのが現状である。そのため、今年度からは新たな取り組みを進めていきたい。

一つは、昨年に引き続き、地元企業のCSRへの取り組み支援として、セミナー等の開催を、ダイバーシティ研究所、日本財団Canpanグループ、I I H O Eと提携して進めたい。そのことで地元企業に対する働きかけの強化を図り、一緒にファンドを運営していく企業仲間の拡大を図る。またせんだいCARE Sへの誘導も働きかけて行く。

また昨年度からの懸案である、せんだい・みやぎNPOセンターのHPの改修と連動してのNPO情報ライブラリーの改修は、マイクロソフト社の助成金を申請して、地域公益ポータルサイトとしての運用を目指しているが、助成金が落選の場合も、日本財団のCanpanサイトの地域公益ポータルサイト支援事業と連動して、そのモデル事業として、サイトのリニューアルを図る。

また昨年末および年頭に実施した企業の社会貢献担当者・経営者交流会も好評だったので、今後も日常的な交流と懇親を図り、本事業の推進に結び付けたい。

[資源提供目標]

・システム協賛企業・団体	12社
・システム提携企業・団体	10社
・提供資金	900万円
・提供パソコン(中古PC)	30台
・提供物品(中古オフィス備品)	随時

[事業]

運営委員会	5/23、年度内にあと1~2回程度開催
セミナー等	企業対象のCSRセミナーの開催

[事務局組織体制]

- ・全体責任者 / 加藤哲夫
- ・全体副責任者・企業コミュニケーション担当 / 紅邑晶子 (A)
- ・「資金」担当者 / 加藤哲夫 (B)、小松敏成 (C)
- ・「物品 (中古オフィス備品)」担当者 / 青木ユカリ (D)
- ・「パソコン等 (中古PC)」担当者 / 遠藤智栄 (E)
- ・担当理事 / 大滝精一、加藤哲夫、川村志厚、木村正樹、針生英一、
紅邑晶子

[年間予算]

収入の部 (単位:円)

科目	摘要	金額
システム協賛金	10社×5万円、2社×10万円	700,000
事業収入A	セミナー、シンポジウム等	50,000
事業収入B	手数料収入等	1,500,000
負担金	せんだい・みやぎNPOセンター	2,000,000
合計		4,250,000

支出の部

科目	摘要	金額
人件費	$A \times 1/10 + B \times 1/20 + C \times 1 + D \times 1/5 + E \times 1/5$	3,060,000
管理費	社会保険料等	370,000
	家賃、光熱費等 1 / 10	240,000
事業費	会場費	50,000
	講師謝金・交通費等	100,000
	運搬費	50,000
	支払い手数料	20,000
事務局費	消耗品費	50,000
	通信費	200,000
予備費		110,000
合計		4,250,000

(2) 仙台市市民活動サポートセンターの指定管理

(2007年4月1日～2010年3月31日)

本年4月から第2期の指定管理の受託を受け、新たに3年間の仙台市市民活動サポートセンターの管理・運営の1年目に入った。サポートセンターは2006年9月に移転オープンし、また2007年7月には館内に新たに「仙台市シニア活動支援センター」もオープンするなど、とりまく環境や利用状況も変化している。今年度は、これらの変化に柔軟に対応するとともに、他機関との連携を強化し、支援力のアップを目指す。

施設概要：

仙台市青葉区一番町4丁目-1-3

電話：022-212-3010 FAX：022-268-4042

開館時間：平日・土曜日 午前9時～午後10時

日曜日・祝日 午前9時～午後6時

休館日：毎月最終水曜日および年末年始（12/29～1/3）

業務の範囲及び具体的内容：

施設管理業務、情報収集提供業務、相談業務、連絡調整業務、各事業の実施（人材育成事業、ネットワーク推進事業、市民公益活動への誘導・啓発事業、その他センターの機能を充足させるために必要な事業）資料の購入、施設及び設備の使用料徴収業務、その他図書委託業務販売業務等

職員体制：常勤職員9名、非常勤職員4名

センター長1名、副センター長1名（2007.7.1）

*各業務に応じて、当センター事務局スタッフの助言および連携を図りながら推進していく。

平成19年度年間目標

「多様な利用者ニーズを的確に把握するとともに、相談・情報の機能を更に強化し、支援力をアップする。」

上記の目標を達成するために以下の1～4を行う。

- 1．多様なニーズに応えられるよう、相談機能の充実を図る
- 2．市民活動の情報拠点として、情報の収集・提供を強化する
- 3．ポータルサイトとしての役割を強化するため、他施設や他機関と

の連携を積極的に行う

4. 共有業務、各班業務の見直しによる“カイゼン”を行う

具体的な取り組み

1. 多様な利用者ニーズに応えられるよう、相談機能の充実を図る

スタッフの相談力をアップするため、定期的にテーマをもうけ
相談研修を実施する

月1回 全体ミーティングで相談研修を実施する

協働相談やインキュベート相談を通じ、継続的でより専門的な
相談体制をつくる

事務用ブース入居団体へは主担当スタッフを設ける

サポセンの相談メニューの存在をより多くの市民に認知して
もらう仕組みを整える

「ぱれっと」やチラシによる広報

相談メニューに関する館内表示の導入

2. 市民活動の情報拠点として、情報の収集・提供を強化する

来館者が、視覚的にサポセンのサービスメニューを把握できる
よう工夫する

1Fの館内表示を整備する。

サポセン利用団体の情報発信を積極的に支援する

より詳しい団体情報の発信を促すためのしくみを作る。

チラシ配布先の新規開拓など、対象者にあわせた広報活動を展
開する

各事業担当者は、ぱれっと同封以外の広報先を開拓する。

3. ポータルサイトとしての役割を強化するため、他施設や他機関との連携を積極的に行う

各事業を通じて関係機関との連携を行う

・市内5区の市民センターとの連携（担当：誘導・啓発事業）

・企業との交流・連携（担当：ネットワーク推進事業）

せんだいCARE Sを通じて、企業へサポセン機能を
紹介する

・市内文化施設との連携（担当：シアター事業）

シニア活動支援センターと連携し、効果的に他施設の情報収集を
行う

4. 共有業務、各班業務の見直しによる“カイゼン”を行う

非効率業務の洗い出しを行う

各班、各チームによる洗い出しを8月末までに行い、具体的な改善案をだす

業務効率化のためのゼロベースでの業務見直しを行う

(3) 仙台市シニア活動支援センターの管理・運営

(2007年7月1日～2008年3月31日)

施設概要：

仙台市青葉区一番町4丁目-1-3 仙台市市民活動サポートセンター3階

電話：022-217-3983 FAX：022-217-3984

開業時間：平日・土曜日 午前10時～午後8時

日曜日・祝日 午前10時～午後6時

休業日：毎週水曜日および年末年始(12/29～1/3)

業務の範囲および具体的内容：

シニア活動の相談業務、シニア活動に関する情報の収集と提供、シニア活動に関するネットワークづくり、関係機関及び団体との連絡調整

シニア活動の支援事業の実施

- ・シニアの相談事業(一般相談/専門相談の実施)
- ・シニアサロン事業(学習・交流・体験できるサロンの実施)
- ・社会貢献マッチング交流会事業(講演、事例発表、展示、交流会等の実施)

職員体制：常勤職員2名(センター長1名)、非常勤職員1名

(4) せんだいCARES2007

主 催：せんだいCARES2007実行委員会

<テーマ>

NPOと企業と市民の接点を増やし、双方の交流の機会を作る。
また、せんだいCARESを通じてNPOの活動支援を行なう。

<主なスケジュール>

期 間：2007年10月27日(土)～12月2日(日)

【期間中】

- ・2007 杜の都のごみゼロ作戦 10月27日(土)
- ・まるごとサポセン 11月11日(日)
- ・いきいきNPOウィーク 11月13日(火)～18日(土)

【期間前】

- ・参加NPO向け説明会 7月23日(月)
- ・七夕チャリティシャッター代行サービス 8月6日(月)～8日(水)
- ・参加NPO申込締切 8月10日(金)
- ・パンフレット完成予定 9月28日(金)
- ・パンフレット合同発送予定 10月1日(月)
- ・まるごとサポセン・いきいきNPOウィーク説明会予定
10月15日(月)

* 実行委員会随時開催。

(5) 10周年記念事業

期 間：2007年11月1日(木)～3日(土・祝)

助 成：日本財団 (コンサートは除く)

<日程と概要>

11月1日(木)

午後：【中間支援組織10年の検証と提案】セミクローズド・ワークショップの開催

会場：仙台市市民活動サポートセンター

夜：谷川俊太郎 + 谷川賢作 コンサートの開催

共催：横田や、特定非営利活動法人ソキウスせんだい

会場：イズミティ 21

11月2日(金)

午前：セミクローズドワークショップの開催

午後：10周年記念セレモニー

夜：記念パーティ

*会場は、すべて仙台市市民活動サポートセンター

11月3日(土)

午前・午後：バスツアーコース NPOと企業のコラボレーションの現場を訪ねる。

仙台通になるまち歩きコース まちづくりNPOに協力

記念誌の出版

【関連企画】

11月3日(土)15:00～4日(日)15:00 1泊2日

「理事・事務局長のための支援力をつける！」

「パワーアップセミナー2007in 仙台」の開催

テーマ：中間支援組織のこれから5年間の未来を描き、その実現戦略をつくる！

主 催：I I H O E [人と組織と地球のための国際研究所] 当センター

会 場：仙台市市民活動サポートセンター

2. センターの運営に関する事項

(1) 通常総会の開催

第9回通常総会の開催

日時：2007年9月8日(土) 13:30～15:30

会場：仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール

総会終了後、記念講演の開催

会場：同上

テーマ：「日本のNPOの10年をふりかえる

- 指定管理者制度とどう向き合うか? -」

講師：後 房雄さん

特定非営利活動法人

市民フォーラム21・NPOセンター 代表理事

(2) 理事会の開催

毎月1回理事会を開催する。(理事合宿を含む)

(3) 評議員会の開催

年に1回以上、評議員会を開催する

・第14回 2007年10月2日(火)

・第15回 2008年4月

(4) 事務局体制について

スタッフの力量向上による一層の事務局体制の強化。

インターンシップ、研修生、ボランティア、研究員などの多様な主体による

参画型の事業体制の構築。

会議の設定

・大町全体ミーティングの開催

・戦略会議の開催

・センター会議の開催

・目標管理会議の開催

研修機会の活用

・内部自主研修

・外部研修 等